

北谷町文化財展示室 資料(1)
インディアン・オーク号の遺物

北谷町教育委員会 社会教育課 文化係
 TEL 936-1234 (内線342)

沖縄初の海底遺跡調査(昭和59年)にもなりました。

昭和59年北谷沖の海中から、(写真)銅釘・銅版・染付・陶器片などがたくさん引き上げられ、これらの遺物を調査した結果、1840年(道光)8月14日、北谷間切の安良波海岸に難破した英船インディアン・オーク号のものでした。

救助されたインディアン・オーク号の乗務員67名は、北谷の人々に、誠心誠意もてなされました。そのこともあり、2000年九州・沖縄サミットの時には、イギリスのブレア首相が北谷を訪問されました。

また、安良波公園内には、北谷の人々の功績をたたえてインディアン・オーク号の記念塔があります。



教育委員会社会教育課文化係の文化財展示室にて、町内の文化財資料を公開しています。

北谷町文化財展示室 資料(2)
《沖縄にもあった銅鏡「海獣葡萄鏡」》

北谷町教育委員会 社会教育課
 文化係 TEL 936-1234 (内線342)

鏡には、裏面に紐を通すつまみがある「漢鏡」と柄を持つ「和鏡」があり、用途としては現在使われている鏡のように単純に物の姿を映し出す道具としてではなく、祭祀・呪術用の道具として用いられたと考えられています。

写真は、平成9年度に平安山原A遺跡(キャンプ桑江地跡)から出土した直径9.8cm・残存部の重量56.22mgの漢鏡です。

漢鏡は、中国の唐代(618年~907年頃)に流行して日本に7世紀頃に伝わり、その多くが青銅や白銅で作られた中国製のもので背面の文様によって色々な名前がつけられています。

本品は、「海獣葡萄鏡」と呼ばれているもので、素地の荒れや銅が茶褐色を呈することから、唐代の白銅鏡(錫の比率が高いもの)を15~16世紀ごろに踏み返したもの(型取り複製)と考えられています。

教育委員会教育課文化係の文化財展示室にて、町内の文化財資料を公開しています。



漢鏡

和鏡



平安山原A遺跡出土



参考文献『沖縄の金工品関係資料調査報告』2008年沖縄県教育委員
 『キャンプ桑江北側返還に伴う試掘調査』2005年3月北谷町教育委員会

北谷町文化財展示室 資料 (5)

「ウーンナ」＝北谷三ヶ村大綱引き＝

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
Tel.936-1234 (内線342)

ウーンナとは大綱のことである。北谷ウーンナは12年に一度、寅年に北谷三箇(旧北谷村(チャタン)・玉代勢村(タメーシ)・伝道村(リンドー))の合同で行われる大綱引きである。(写真1)

三ヶ村を東と西の二組に分け、旗頭(写真2)を先頭にボラ(ほら貝)や太鼓の鳴り物を響かせ踊りの衆が列をなして練り歩いた後、雌綱と雄綱をカヌチ棒でつないで引き合います。不作続きの年に寅年だけ豊作になったので、人々がとても喜び豊年満作と無病息災を祈願し、それを祝い寅年に行うようになったという説があり大綱引きをするようになったと伝えられ約300年の歴史がある有名な行事です。

戦争でいったん中断するものの昭和49年(1974年)に復活し、その後、昭和61年(1986年)、平成10年(1998年)の寅の年に大綱引きが行われた。来年(平成22年)は寅年で大綱引きの年にあたります。

参考文献

「北谷町史第3巻・資料編2・民俗・上・下」北谷町役場
「沖縄の祭祀と信仰」平敷令治著
「まつり31」＝北谷三ヶ村大綱引き 崎原恒新・著
「沖縄大百科事典」沖縄タイムス社
「北谷町の地名」北谷町役場



▲ 写真1



◀ 写真2

北谷町文化財展示室 資料 (6)

「ウーンナ」

北谷三ヶ所大綱引き 第2弾＝旗頭(ハタガシラ)＝

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
Tel.936-1234 (内線342)

先月の広報に引き続き、今回は北谷三ヶ村大綱引きの旗頭についての紹介です。来年は寅年で大綱引きの年にあたり、12年ぶりの北谷ウーンナを今から楽しみにしている方も大勢いらっしゃるでしょう。

北谷三ヶ村(旧北谷村、旧玉代勢村、旧伝道村)で行われる大綱引きには、それぞれの村の伝統や特色を表現した旗頭(ハタガシラ)があります。太鼓や指笛を打ち鳴らし、双方の青年が旗頭を上下に振りながら近づく旗頭ガオーは、綱引きの興奮を盛り立てます。旗頭は村のシンボルで、戦前、戦後とも玉代勢村では牡丹(ぼたん)の花と八角の旗頭、伝道村は菖(しょう)蒲(ぶ)の花の旗頭です。しかし、北谷村では戦後になると変化がみられ、戦前の桜と梅の旗頭から梅、太鼓、扇子、星の旗頭が新たに作られました。旗頭の本数は戦前、戦後とも変化はなく、1998年(平成10年)に行われた大綱引きでも北谷村4本、玉代勢村2本、伝道村1本の計7本でした。

また、旗頭が倒れないように、3本のカイマタ(二又に分かれた金具をつけた棒)と旗竿に括りつけた縄で旗頭を持つ人はうまくバランスを保っています。

参考文献

「北谷町の綱引き」北谷町教育委員会
「北谷町史第3巻・資料編2・民俗・上・下」北谷町役場
「沖縄大百科事典」沖縄タイムス社



北谷町文化財展示室 資料 (7)

「ウーンナ」

＝北谷三カ村大綱引き第3弾 綱引き由来＝

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
TEL936-1234 (内線342)

▶男綱と女綱を連結したところ



今回は綱引きの由来について、さらに詳しく掘り下げて説明したいと思います。北谷・玉代勢・伝道の三カ村で行われる大綱引きは、数え13年廻りの寅年に行われるが、大綱引き以外に戦前は他の字でも、それぞれの部落で毎年綱引きが行われていました。

砂辺では旧六月十四日に、下勢頭は六月十五日（後に十六日）、平安山では六月二十四日、北谷、玉代勢、伝道は六月二十五日に毎年綱引きが行われていました。

綱引きは、収穫感謝祭・豊作祈願・雨乞い祈願・厄払い（除災）などを目的として行われます。六月のウマチー綱、カシチー綱の場合には単に収穫祭や豊年祈願だけでなく年占的な性格も

持っていたようです。綱を曳くことによって翌年がどのような年になるかを占うものです。

綱の材料である藁（わら）は、どの部落も馬車をひいて北谷や瑞慶覧から買って来たようです。綱引き終了後は保存し修理して使う部落と、一部は保存し残りはムチャー（漆喰販売店）に売却する部落もありました。

綱引きの習俗は、北は青森から南は沖縄まで34都道府県に分布しています。なかでも鳥取、鹿児島、沖縄が頻繁です。綱引きを行う期日には20種類の異なる期日があり小正月、・五月節句、・旧盆・八月十五夜に引くところがほとんどです。

毎年行われる年中行事としての綱引きのほかにも5年・7年・そして今回の13年マール（周り）ごとに行うマールジナ（綱）もあります。それが、三ヶ村の大綱引き（ウーンナ）です。



◀綱を拘っている様子

北谷町文化財展示室 資料 (8)

「ウーンナ」

＝北谷三カ村大綱引き第4弾 フェースシマ＝

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
TEL936-1234 (内線342)

写真① 前回のフェースシマ



北谷大綱引きは、三カ村各字の旗頭を先頭に、多種多様な出し物の道ジュネーが練り歩き、綱引きを盛り立てます。

今回は、道ジュネーの出し物の中から、「フェースシマ」を取り上げます。

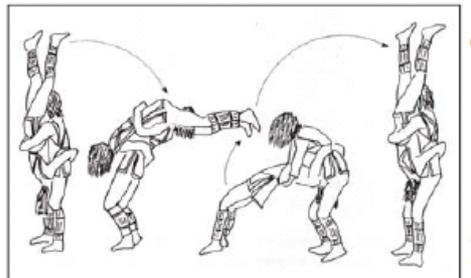
北谷のフェースシマは、旧北谷村に伝わるもので、どこから来たのかその由来ははっきりしません。

フェースシマの演目は、棒を振り回し、打ち合う「棒巻」、空手の型のような「手」、「歌」、「ダチムッチー」の4つから成ります。演舞は二人一組になって相手を持ち上げ背中の上ででんぐり返し

をしたり、飛び跳ねたりするなど危険な技です。戦前は、17才から30才前半の体格の良い青年が選ばれていますが前回の綱引きでは15才から43才までの体格に差が無い人が選ばれ、体格の大きな人は旗頭にまわりました。

写真①のようにキジムナーを連想させる容姿は、オレンジ色のかつらと水色に紫の縁のついた派手な陣羽織は独特で面白い。又、意味不明なかけ声と奇声は祭りでひとときわ目立ち、観客を楽しませてくれます。

図①のイラストにある「ダチムッチー」は、あまりにも危険が伴うということで現在は行われていません。



図① ダチムッチーの様子

北谷町文化財展示室 資料 (9)
「ウーンナ」
＝北谷三カ村大綱引き第5弾 衣装＝

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
Tel.936-1234 (内線342)

戦前の北谷三カ村は、現在の様に軍用地料なども無く、農作業の中からの収入は限られていたので、大綱引き(ウーンナ)の衣装も出演する演目によって、紺地(クンジ)あるいは芭蕉(バサー)、緋(イチリー)と、大まかな指定だけでした。北谷村は百姓村であったので、柄物の着用は好まれなかったことから、地味な着物を着ていたようです。また当時は、字にムラヤー(村屋)があり、村芝居のための衣装が保管されていたので、村芝居の衣装をそのままシタクが着けたりしていた事もあったそうです。

昔は、手持ちの着物の中で一番良い着物を着ける人が多かったようですが、12年に一度の大綱引きという事で、新調した着物を着て道ジュネーに参加する人もいたそうです。

また、12年に一度ということから、着物の色や柄にも流行があり、回を重ねるごとに艶やかで華やかな衣装に変化してきました。戦後の大綱引きでは各字に数名の衣装担当者が選出され、その衣装担当者らによって衣装や小道具などが揃えられる様になりました。



▲1938年プラチリ衣装



▲1998年プラチリ衣装



▲1974年旗頭衣装



▲1986年の旗頭衣装

※参考文献「北谷町の綱引き」 北谷町教育委員会 2000年

北谷町文化財展示室 資料 (10)
「ウーンナ」
＝北谷三カ村大綱引き第6弾 衣装＝

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
Tel.936-1234 (内線342)

今回は、綱引き前に行われる道ジュネーの中から、加那(かな)ヨーの衣装について紹介します。加那ヨーとは、農村社会での若き男女の恋を強調した歌詞に振りをつけてまとめた創作舞踊の事を言います。その際に着る着物には、字北谷、字玉代勢、字伝道で若干の違いが見られます。下の写真は、1998年大綱引きの際の各字の加那ヨー衣装です。

字北谷の衣装は、紫地の着物にティンカキジャー(緋図柄の一種)とカーヌティカー(井戸の枠)文様が入っています。頭には紫の紙笠を被り、右肩には赤染みティースージ(手巾)をかけ、腰には紫の長巾を女結びにします。

字玉代勢の衣装は、麻地色にグバンヌミー(基盤目)・ハサミ等の文様が入っています。頭には紫の長巾で女結びにし、肩には赤染み手巾をかけます。

字伝道の衣装は、明るめの紫地に白のティンカキジャーの文様で黄色と緑色の文様が入っています。頭はマンサージを前結びにしその上から紙笠を被ります。右肩には赤の手巾をかけ帯は女結びにし、白足袋に赤い鼻緒の草履を履いて踊ります。



▶ 字北谷の加那ヨー
(写真の右側)



▶ 字玉代勢の加那ヨー



▶ 字伝道の加那ヨー

※参考文献「北谷町の綱引き」 北谷町教育委員会 2000年



町花フィリソシンカ

ちやたん

CHATAN No.394



町木センダン



●伊礼原遺跡が、平成22年2月22日に国指定史跡となりました。(写真は平成12年の確認調査状況写真)
 伊礼原遺跡は、縄文時代から戦前まで連綿と人々が生活をしてきた痕跡が確認され、県内では例を見ない貴重な遺跡です。町では、国指定史跡を記念して、ちやたんニライセンターで「国指定史跡 伊礼原遺跡展」(平成22年4月9日から18日まで)を開催します。

Contents			
■健康だより	2~3	■図書館だより	16
■平成22年度の土地の固定資産税について	3	■家庭ごみの分別・排出方法について	17
■北谷町文化財展示室 資料(10)	4	■学生のための学生納付特例制度	17
■ちやたん町高校総体だより	4	■お知らせ	18~19
■平成22年度施政方針	5~14	■地域フラッシュ	裏表紙
■個人備蓄・災害避難場所について	15		

2010. 4



平成22年度全国高等学校総合体育大会
 ちや しま おきなわ そうたい にせんじゅう
美ら島沖縄総体2010

美ら島沖縄総体 2010
 開催まであと、
118日
 (平成22年4月1日現在)



美ら島沖縄総体 2010 総合開会式
 平成22年7月28日
 女子ソフトボール競技(北谷町)
 平成22年7月30日~8月3日

北谷町文化財展示室 資料(11)

ウーンナ

=北谷三カ村大綱引き第7弾 衣装=

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
Tel.936-1234 (内線342)

今回は、綱引き前に行われる道ジュネーの中から、ミルク（弥勒）について紹介します。北谷三カ村大綱引きの道ジュネー演目にミルクがあるのは、字玉代勢のみとなっています。何故、字玉代勢にのみミルクが存在するのか、その詳細は判っていませんが、人々の弥勒信仰（五穀豊穡と幸をもたらすと考えられている）によって弥勒菩薩が現れ、世界報（ユガフー）や嘉利（カリー）を村人にもたらし、幸せに導いていくという意味から存在する様になったのではないかと話があります。

ミルクに扮する人は特別に決まっておらず、年齢や生まれ年も関係ないようです。ミルクの衣装に特別な呼称はなく、単に「ミルクヌチン（弥勒の着物）」と呼ばれています。

戦前・戦後とミルクの衣装に特別な変化は見られず、黄色の衣装をまとっているようです。1998（平成10）年のミルクは、白い手袋をはめ、右手に軍配団扇を持って団扇を左右に振り、足下は白足袋に白い鼻緒の草履を履いていました。そして、ミルクの体型のふくよかさを演出するために、おなかの中にタオルを入れたり、鍋を入れたりして膨らませ、字玉代勢の道ジュネーの先頭に付きます。



▲道ジュネーをするミルク
(1998年)

参考文献 「北谷町の綱引き」 北谷町教育委員会 2000年

北谷町文化財展示室 資料(12)

「ウーンナ」

=北谷三カ村大綱引き第8弾 拝み=

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
Tel.936-3159

北谷三カ村大綱引きの拝みは、綱引きに関連して念入りの拝みや儀式が綱引き前、綱引き当日、綱引き直後に行われます。

まず大綱引きが挙行されるまでの拝みとしては、①カニチ棒（雄綱と雌綱を連結させる棒）の用材と松の木の伐採祈願、②完成した大綱の清めと大綱引きの成功祈願、③三ヶ字それぞれの拝所のメウガミ（前拝み、玉寄勢は当日に巡拝）があります。

大綱引き当日には一家の健康を願う行事、カンチーウミュ（折目）と大綱引きの成功祈願が北谷ノロ殿内で行われます。

拝所の一つ「縄のカヌチ根軸」は、1988年に旧字北谷民一同によって、「マタジ」（湧き水）は1989年に北谷ノロ殿内の家人によって碑が建てられ、以来ムラの聖地に加えられて拝むようになったといえます。

大綱引き直後の処理儀礼には、「カニチ焼き」など行われ、あらかじめ用意したワラ束に火をつけてぶつかり合った後、特定の場所に綱を放置する儀式です。1998年には、クシダカリ（雄綱）は安良波公園内のインディアンオーク号あたりの波打ち際にワラ束を放置し、メンダカリ（雌綱）は戦前のウマアシグムイ（馬場の南端に位置）にあたる場所まで運び放置しました。

北谷三カ村大綱引きの拝みは、部落によって、少々の違いはあるものの入念な拝みは今も引き継がれています。



▲写真1 マタジ（1989年建）



▲写真2 わら束のぶつけ合い

北谷町文化財展示室 資料(13)
「ウーナ」 北谷三カ村大綱引き第9弾 拝み2

今回は大綱引きの当日に行われた拝みについて紹介します。

「北谷ノロ殿内での拝み」

大綱引き当日の午前8時過ぎ北谷ノロ殿内では、ご飯とソーキ汁、刺身、キュウリの酢の物などをノロ殿内の神仏と、母屋の仏壇に供え、一家の健康を願う6月カシチーウユミ（折目）の行事が、ノロ殿内の家人らによって行われた。

午前9時半過ぎに旧北谷郷友会の三役らがノロ殿内を訪れ、字からの6月カシチーの拝みと大綱引きが首尾よく行われることを祈念する拝みを行った。

ノロ殿内の神仏の前には、ノロ殿内のビンシー、旧字がビンシーと米、酒、果物が供えられ、ノロによって火ヌ神の香炉に線香15本の3組、神棚とカンティーオーの香炉には線香15本がともされ、字の繁栄と村人の健康、そして大綱引きの開始と無事に終了することを祈念しての拝みが、火ヌ神、神棚、カンティーオー（関帝王）の順におこなわれました。

火ヌ神での祈りの後、旧字を代表して郷友会会長がノロと盃を交わし、神棚とカンティーオーでの祈りを終えると、郷友会の三役はそれぞれがノロと盃を交わして、綱引き開始の報告と安全を祈念する拝みを終了しました。

「伝道ウフヤでの拝み」

大綱引き当日の正午過ぎ、伝道ウフヤでは数人の郷友会会員らが、旗頭の組み立てや、ミチジュネーの準備をし、伝道ウフヤの家人らは、御神屋の火ヌ神と神棚の香炉に線香15本をともして手を合わせ大綱引きの日を迎えた報告と、成功を祈った。



▶ 北谷ノロ殿内の拝み



▶ 伝道ウフヤでの拝み

北谷町文化財展示室 資料(14)
「ウナー」 北谷三カ村大綱引き第10弾 綱が出来るまで

北谷町教育委員会
社会教育課 文化係
TEL936-3159 (内線342)

いよいよ、本番が間近にせまってきました。

今回は、北谷三カ村大綱引き実行委員会の事務所に行き綱ができるまでのお話を実行委員長の金城紀昭さんからお話を伺いました。

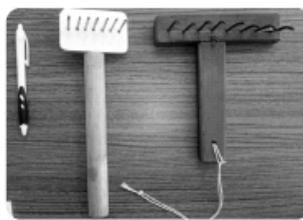
材料は金武町屋嘉の稲作農家から稲わらを平成21年2月に12t購入、機械で脱穀し倉庫に保管してもらっています。平成22年7月4日に30人から40人が金武町に向かい受け取り、北谷町（旧エオ）へ同じく30人～40人が到着を待ちます。運ばれた稲わらを写真1の道具を使いえり分け作業し丈夫な稲わらだけが綱として使われるそうです。

そこから1日80人～100人くらいの人数で小さい綱を編んで合わせて作り15日～21日で仕上げていきます。

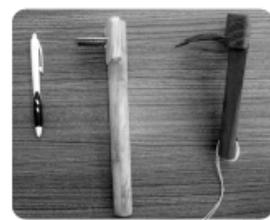
300年前から伝わる北谷三カ村大綱引きは、平成22年8月8日（日）午後2時から北谷公園陸上競技場において行われます。たくさんの方に見てもらいたいと思います。



▲北谷町三カ村実行委員会（会議の様子）



▲綱を編む道具



▲綱を編む道具（側面）